



**京セラ株式会社**

2024年3月期 第1四半期決算説明会

2023年7月31日

## イベント概要

---

[企業名]	京セラ株式会社
[企業 ID]	6971
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2024 年 3 月期 第 1 四半期決算説明会
[決算期]	2024 年度 第 1 四半期
[日程]	2023 年 7 月 31 日
[時間]	16:20 – 16:56 (合計：36 分、登壇：9 分、質疑応答：27 分)
[開催場所]	インターネット配信
[登壇者]	1 名 執行役員 経営管理本部長 千田 浩章 (以下、千田)

## 登壇

---

**司会**：皆様、お待たせいたしました。本日はお忙しい中、京セラ株式会社のウェビナーにご参加いただき、誠にありがとうございます。

ただ今より 2024 年 3 月期第 1 四半期 決算説明会を開催いたします。本日使用いたします資料は、当社ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。なお、本日のウェビナーは録画しております。あらかじめご了承ください。

それでは、最初に本日の出席者を紹介いたします。執行役員経営管理本部長、千田浩章でございます。

**千田**：千田です。よろしくお願いいたします。

**司会**：それでは、これより説明を開始いたします。千田さん、よろしくお願いいたします。

**千田**：経営管理を担当しております、千田でございます。平素は皆様に変にお世話になり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。本日は大変お忙しい中、当社決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

それでは 2024 年 3 月期第 1 四半期 決算説明会資料に沿ってご説明いたします。

## 1 2024年3月期 第1四半期 決算概要

## 2 2024年3月期 業績予想

資料の1ページをご覧ください。

本日はこちらに記載のとおり、2024年3月期第1四半期決算概要、および2024年3月期業績予想についてご説明いたします。

# **1** 2024年3月期 第1四半期 決算概要

## **2** 2024年3月期 業績予想

2 ページをご覧ください。それでは、はじめに 2024 年 3 月期第 1 四半期の決算概要についてご説明いたします。

(単位：百万円)

	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	増減金額	増減率
売上高	491,954	479,420	-12,534	-2.5%
営業利益	41,428 (8.4%)	25,677 (5.4%)	-15,751	-38.0%
税引前利益	68,711 (14.0%)	50,477 (10.5%)	-18,234	-26.5%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	49,974 (10.2%)	37,392 (7.8%)	-12,582	-25.2%
平均為替 米ドル	130円	137円		
レート ユーロ	138円	149円		

注：（ ）内の数字は売上高比率

**当社主要市場の市況低迷及びインフレの進行を主因に、減収減益**

3 ページをご覧ください。当第1四半期の売上高は、前年同期に比べ2.5%減少の4,794億円となりました。営業利益は257億円、税引前利益は505億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は374億円となりました。

当社主要市場の市況低迷、およびインフレの進行を主因に減収減益となりました。

(単位：百万円)

	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	増減金額	増減率
設備投資額	44,367 (9.0%)	29,961 (6.2%)	-14,406	-32.5%
有形固定資産 減価償却費	25,310 (5.1%)	26,399 (5.5%)	1,089	4.3%
研究開発費	22,425 (4.6%)	24,984 (5.2%)	2,559	11.4%

注：（ ）内の数字は売上高比率

ファインセラミック製品や電子部品を中心に、需要状況に応じて一部設備投資を2Q以降へ延期

4 ページをご覧ください。設備投資額は 300 億円、減価償却費は 264 億円、研究開発費は 250 億円となりました。

ファインセラミック製品や電子部品を中心に、需要状況に応じて一部設備投資を当第 2 四半期以降へ延期したことなどにより、設備投資額が減少しました。

## 2024年3月期 第1四半期 事業セグメント別売上高



(単位：百万円)

事業セグメント別 売上高	2023年3月期 第1四半期		2024年3月期 第1四半期		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
<b>コアコンポーネント</b>	<b>141,521</b>	<b>28.8%</b>	<b>134,065</b>	<b>28.0%</b>	<b>-7,456</b>	<b>-5.3%</b>
産業・車載用部品	46,938	9.5%	52,864	11.0%	5,926	12.6%
半導体関連部品	87,909	17.9%	74,307	15.5%	-13,602	-15.5%
その他	6,674	1.4%	6,894	1.5%	220	3.3%
<b>電子部品</b>	<b>95,401</b>	<b>19.4%</b>	<b>84,565</b>	<b>17.6%</b>	<b>-10,836</b>	<b>-11.4%</b>
<b>ソリューション</b>	<b>258,003</b>	<b>52.4%</b>	<b>264,605</b>	<b>55.2%</b>	<b>6,602</b>	<b>2.6%</b>
機械工具	81,897	16.6%	80,448	16.8%	-1,449	-1.8%
ドキュメントソリューション	101,177	20.6%	103,574	21.6%	2,397	2.4%
コミュニケーション	47,501	9.6%	49,954	10.4%	2,453	5.2%
その他	27,428	5.6%	30,629	6.4%	3,201	11.7%
その他の事業	5,884	1.2%	5,330	1.1%	-554	-9.4%
調整及び消去	-8,855	-1.8%	-9,145	-1.9%	-290	—
<b>売上高</b>	<b>491,954</b>	<b>100.0%</b>	<b>479,420</b>	<b>100.0%</b>	<b>-12,534</b>	<b>-2.5%</b>

5

© 2023 KYOCERA Corporation

5 ページをご覧ください。こちらは事業セグメント別売上高の一覧です。

## 2024年3月期 第1四半期 事業セグメント別利益



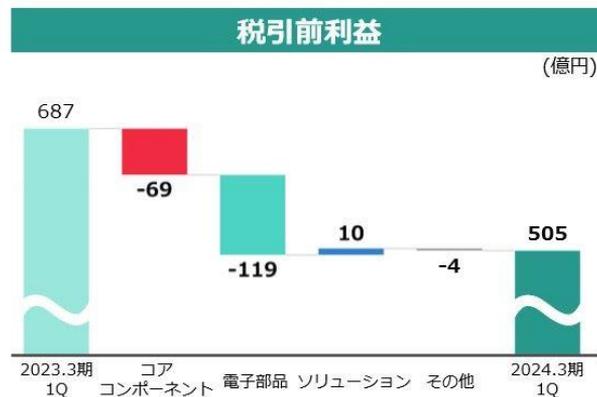
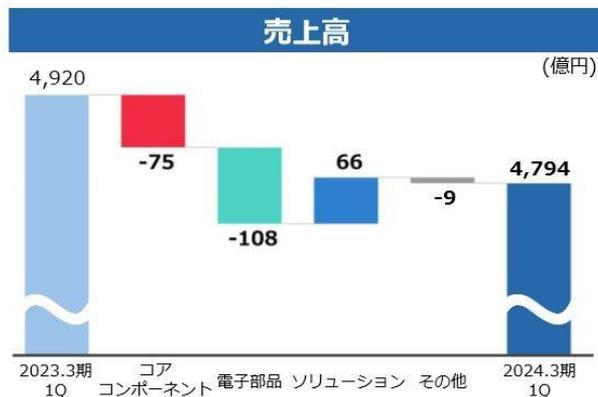
(単位：百万円)

事業セグメント別 利益	2023年3月期 第1四半期		2024年3月期 第1四半期		増減	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	率
<b>コアコンポーネント</b>	<b>20,754</b>	<b>14.7%</b>	<b>13,835</b>	<b>10.3%</b>	<b>-6,919</b>	<b>-33.3%</b>
産業・車載用部品	4,502	9.6%	6,218	11.8%	1,716	38.1%
半導体関連部品	17,074	19.4%	7,903	10.6%	-9,171	-53.7%
その他	-822	—	-286	—	536	—
<b>電子部品</b>	<b>16,007</b>	<b>16.8%</b>	<b>4,062</b>	<b>4.8%</b>	<b>-11,945</b>	<b>-74.6%</b>
<b>ソリューション</b>	<b>14,721</b>	<b>5.7%</b>	<b>15,681</b>	<b>5.9%</b>	<b>960</b>	<b>6.5%</b>
機械工具	8,812	10.8%	5,024	6.2%	-3,788	-43.0%
ドキュメントソリューション	6,870	6.8%	9,022	8.7%	2,152	31.3%
コミュニケーション	-746	—	-543	—	203	—
その他	-215	—	2,178	7.1%	2,393	—
その他の事業	-6,159	—	-9,922	—	-3,763	—
<b>事業利益 計</b>	<b>45,323</b>	<b>9.2%</b>	<b>23,656</b>	<b>4.9%</b>	<b>-21,667</b>	<b>-47.8%</b>
本社部門損益等	23,388	—	26,821	—	3,433	14.7%
<b>税引前利益</b>	<b>68,711</b>	<b>14.0%</b>	<b>50,477</b>	<b>10.5%</b>	<b>-18,234</b>	<b>-26.5%</b>

6

© 2023 KYOCERA Corporation

6 ページをご覧ください。こちらは、事業セグメント別利益の一覧です。



円安による増収効果はあったものの、前期Q4から続く当社主要市場(半導体関連、情報通信市場)での調整局面に伴い、主要部品の需要が減少し減収

減収の影響に加え、インフレによる原材料価格、エネルギーコスト等の上昇を主因に減益

7

© 2023 KYOCERA Corporation

7 ページをご覧ください。こちらは当第1四半期実績のサマリーを示しています。

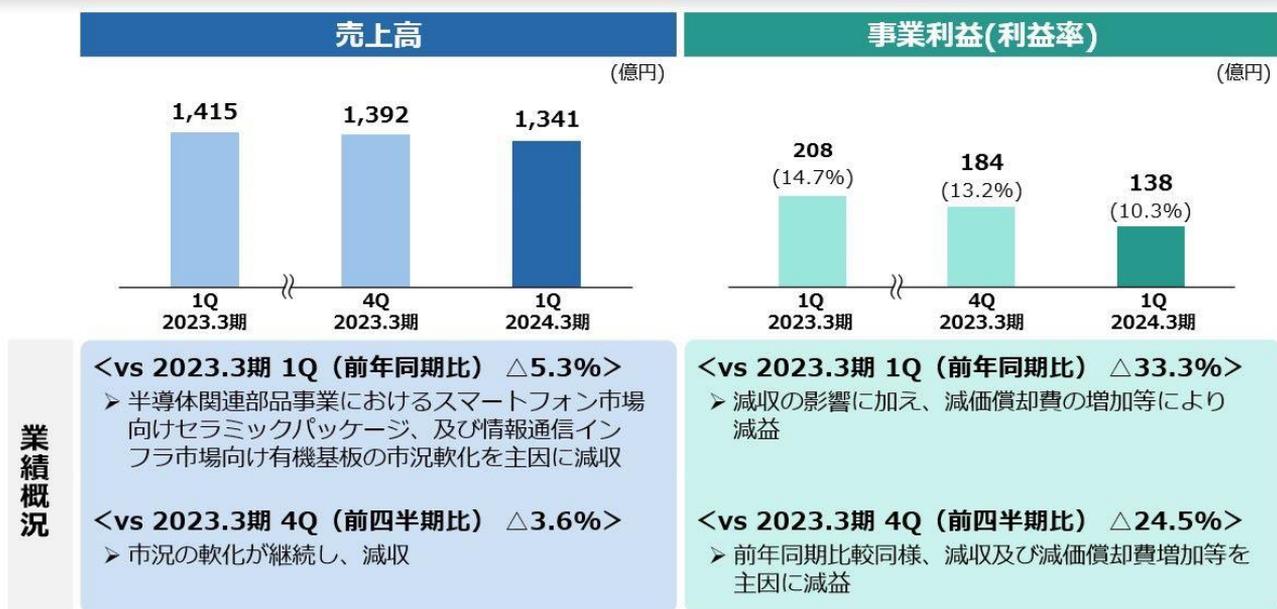
スライド左側の売上高をご覧ください。事業セグメント別では、グラフ中央青色のソリューションは増加しましたが、コアコンポーネントと電子部品は減少しました。

円安による増収効果はあったものの、前第4四半期より当社主要市場である半導体関連や、情報通信市場において調整局面が継続していることに伴い、主要部品、特に電子部品の需要が減少し、減収となりました。

続いて、右側の税引前利益をご覧ください。売上高同様、ソリューションは増加しましたが、コアコンポーネント、電子部品は減少しました。

減収の影響に加え、インフレによる原材料価格、エネルギーコストなどの上昇を主因に減益となりました。売上高同様、利益面でも電子部品の減少幅が大きくなっております。

各セグメントの売上高、利益の詳細については、次ページ以降でご説明いたします。



注：前期比較増減率及び事業利益率は百万円単位で算出

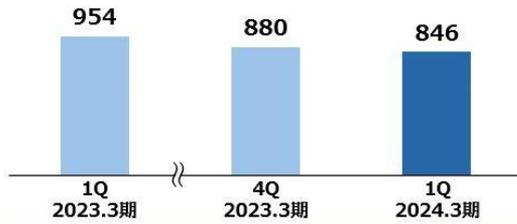
8 ページをご覧ください。まずは、コアコンポーネントです。

当第1四半期の売上高は1,341億円となりました。半導体製造装置用部品や、自動車部品などの堅調な需要を背景に、産業・車載用部品は増収となったものの、半導体関連部品事業におけるスマートフォン市場向けセラミックパッケージ、および情報通信インフラ市場向け有機基板の市況が軟化したことを主因に、前年同期比較ならびに前四半期比較で減収となりました。

利益は138億円となりました。減収の影響に加え、減価償却費の増加などにより前年同期比較、ならびに前四半期比較で減益となりました。

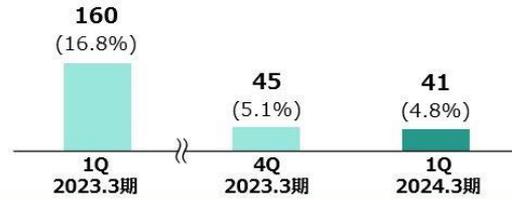
## 売上高

(億円)



## 事業利益(利益率)

(億円)



## 業績概況

<vs 2023.3期 1Q (前年同期比)  $\Delta$ 11.4%>

- ▶ 在庫調整の影響が継続していることに伴い、情報通信市場向けのコンデンサや水晶部品等の販売減少を主因に減収

<vs 2023.3期 4Q (前四半期比)  $\Delta$ 3.9%>

- ▶ 市場の調整局面が継続し、減収

<vs 2023.3期 1Q (前年同期比)  $\Delta$ 74.6%>

- ▶ 情報通信市場向けコンデンサや水晶部品等の高付加価値製品の減収を主因に、大幅減益

<vs 2023.3期 4Q (前四半期比)  $\Delta$ 9.6%>

- ▶ 市場の調整局面が継続し、若干の減益

注：前期比較増減率及び事業利益率は百万円単位で算出

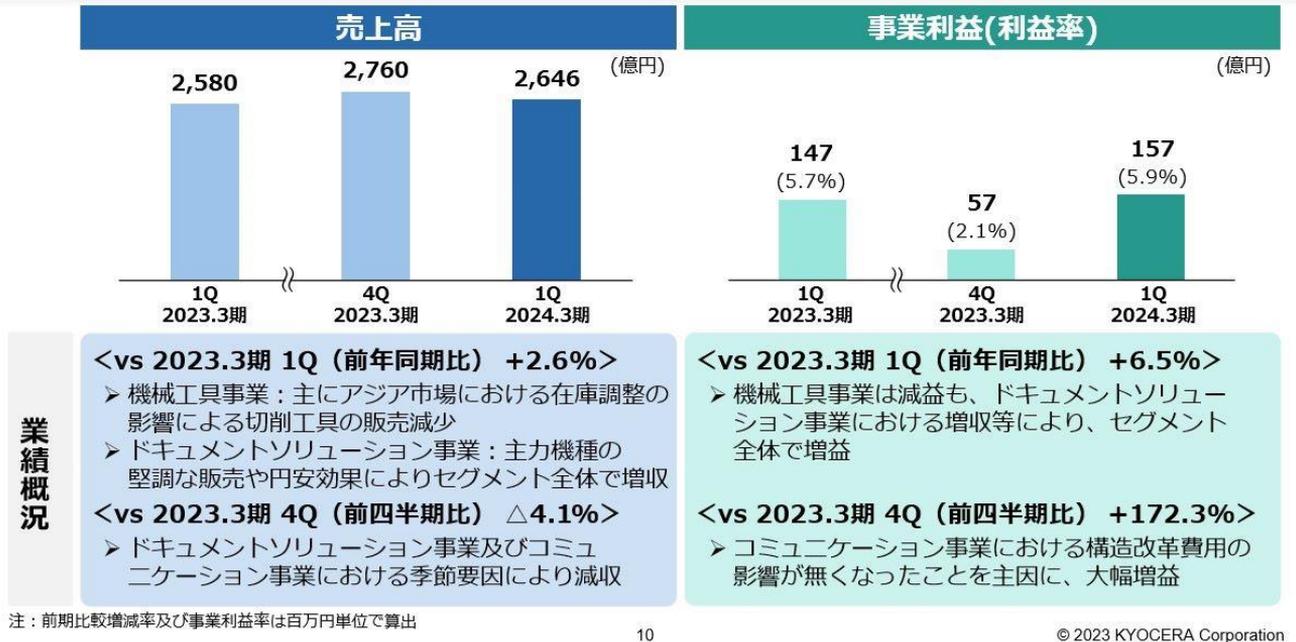
9

© 2023 KYOCERA Corporation

9 ページをご覧ください。続いて、電子部品です。

当第1四半期の売上高は846億円となりました。在庫調整の影響が継続していることに伴い、情報通信市場向けコンデンサや水晶部品などの販売が減少したことを主因に、前年同期比較ならびに前四半期比較で減収となりました。

利益については41億円となりました。情報通信市場向けのコンデンサや水晶部品等の高付加価値製品の減収を主因に、前年同期比較で大幅減益となり、前四半期比較でも若干の減益となりました。



10 ページをご覧ください。最後にソリューションです。

当第1四半期の売上高は2,646億円となりました。機械工具事業において、主にアジア市場での在庫調整の影響により、切削工具の販売が減少した一方で、ドキュメントソリューション事業における主力機種の堅調な販売に加え、円安効果もあり、セグメント全体では前年同期比較で増収となりました。一方、前四半期比較ではドキュメントソリューション事業、およびコミュニケーション事業における季節要因により、減収となりました。

利益は157億円となりました。機械工具事業は減益となりましたが、ドキュメントソリューション事業における増収などにより、セグメント全体では前年同期比較で増益となりました。一方、前四半期比較では、コミュニケーション事業における構造改革費用の影響がなくなったことを主因に、大幅増益となりました。

## 1 2024年3月期 第1四半期 決算概要

## 2 2024年3月期 業績予想

11 ページをご覧ください。続いて、2024年3月期業績予想についてご説明いたします。

## 2024年3月期 業績予想 (1)



(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	増減金額	増減率
		5月公表数字から変更なし		
売上高	2,025,332	2,100,000	74,668	3.7%
営業利益	128,517 (6.3%)	147,000 (7.0%)	18,483	14.4%
税引前利益	176,192 (8.7%)	200,000 (9.5%)	23,808	13.5%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	127,988 (6.3%)	145,000 (6.9%)	17,012	13.3%
基本的EPS(円)	356.60	408.40		
平均為替 米ドル	135円	125円		
レート ユーロ	141円	130円		

注1: ( ) 内の数字は売上高比率

注2: 2024年3月期予想の基本的EPSは、2024年3月期第1四半期の期中平均株式数を用いて算出

**当社の主要市場である半導体関連や情報通信市場の回復時期は、下期以降の見込み**

12 ページをご覧ください。通期の業績予想につきましては、本年5月の公表数値から変更はありません。

当第1四半期の業績は、通期業績予想に対しておおむね期初の想定の範囲内で推移しました。一方で当社の主要市場である半導体関連や、情報通信市場の回復時期については、下期以降になるものと見込んでいます。

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	増減金額	増減率
		5月公表数字から変更なし		
設備投資額	173,901 (8.6%)	275,000 (13.1%)	101,099	58.1%
有形固定資産 減価償却費	108,757 (5.4%)	123,000 (5.9%)	14,243	13.1%
研究開発費	94,277 (4.7%)	115,000 (5.5%)	20,723	22.0%

注：（ ）内の数字は売上高比率

13 ページをご覧ください。設備投資額、減価償却費、研究開発についても、本年 5 月の公表数値から変更はありません。

設備投資につきましては、部品需要の動向を見つつ、機を逃さないよう努めてまいります。

## 2024年3月期 事業セグメント別売上高予想



(単位：百万円)

事業セグメント別 売上高	2023年3月期		2024年3月期 5月公表数字から変更なし		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
<b>コアコンポーネント</b>	<b>592,376</b>	<b>29.2%</b>	<b>620,000</b>	<b>29.5%</b>	<b>27,624</b>	<b>4.7%</b>
産業・車載用部品	199,194	9.8%	225,000	10.7%	25,806	13.0%
半導体関連部品	364,579	18.0%	365,000	17.4%	421	0.1%
その他	28,603	1.4%	30,000	1.4%	1,397	4.9%
<b>電子部品</b>	<b>378,536</b>	<b>18.7%</b>	<b>390,000</b>	<b>18.6%</b>	<b>11,464</b>	<b>3.0%</b>
<b>ソリューション</b>	<b>1,068,597</b>	<b>52.8%</b>	<b>1,115,000</b>	<b>53.1%</b>	<b>46,403</b>	<b>4.3%</b>
機械工具	308,406	15.2%	315,000	15.0%	6,594	2.1%
ドキュメントソリューション	434,914	21.5%	455,000	21.7%	20,086	4.6%
コミュニケーション	207,793	10.3%	225,000	10.7%	17,207	8.3%
その他	117,484	5.8%	120,000	5.7%	2,516	2.1%
その他の事業	23,403	1.2%	20,000	0.9%	-3,403	-14.5%
調整及び消去	-37,580	-1.9%	-45,000	-2.1%	-7,420	—
<b>売上高</b>	<b>2,025,332</b>	<b>100.0%</b>	<b>2,100,000</b>	<b>100.0%</b>	<b>74,668</b>	<b>3.7%</b>

14 ページをご覧ください。こちらは事業セグメント別売上高の一覧です。全てのセグメントで、本年5月の公表数値から変更はありません。

## 2024年3月期 事業セグメント別利益予想



(単位：百万円)

事業セグメント別 利益	2023年3月期		2024年3月期 5月公表数字から変更なし		増減	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	率
<b>コアコンポーネント</b>	<b>89,475</b>	<b>15.1%</b>	<b>86,000</b>	<b>13.9%</b>	<b>-3,475</b>	<b>-3.9%</b>
産業・車載用部品	24,743	12.4%	32,000	14.2%	7,257	29.3%
半導体関連部品	67,702	18.6%	53,000	14.5%	-14,702	-21.7%
その他	-2,970	—	1,000	3.3%	3,970	—
<b>電子部品</b>	<b>44,064</b>	<b>11.6%</b>	<b>55,000</b>	<b>14.1%</b>	<b>10,936</b>	<b>24.8%</b>
<b>ソリューション</b>	<b>42,239</b>	<b>4.0%</b>	<b>79,000</b>	<b>7.1%</b>	<b>36,761</b>	<b>87.0%</b>
機械工具	23,279	7.5%	26,000	8.3%	2,721	11.7%
ドキュメントソリューション	33,706	7.8%	40,000	8.8%	6,294	18.7%
コミュニケーション	-11,729	—	3,000	1.3%	14,729	—
その他	-3,017	—	10,000	8.3%	13,017	—
その他の事業	-28,795	—	-45,000	—	-16,205	—
<b>事業利益 計</b>	<b>146,983</b>	<b>7.3%</b>	<b>175,000</b>	<b>8.3%</b>	<b>28,017</b>	<b>19.1%</b>
本社部門損益等	29,209	—	25,000	—	-4,209	-14.4%
<b>税引前利益</b>	<b>176,192</b>	<b>8.7%</b>	<b>200,000</b>	<b>9.5%</b>	<b>23,808</b>	<b>13.5%</b>

15

© 2023 KYOCERA Corporation

15 ページをご覧ください。こちらは、事業セグメント別利益の一覧です。売上高同様、本年 5 月の公表数値から変更はありません。

引き続き受注獲得に努め、売上拡大を図るとともに、さらなる収益性向上への取り組みを進め、通期連結業績予想の達成を目指してまいります。

以上が私からの説明となります。今後とも、当社に対しましてご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

## 質疑応答

---

### <質問者 1 >

[Q]：二つお願いします。

最初、今一度もう少し製品別に分けて、計画比で見た1Qの想定線、または想定よりもちょっとスローな出足だったところを色分けしてもらいたいのが一つです。

そこから見たときの、2Qの戻りとかの水準感、それも当初の3カ月前に対してちょっと上なのか、予定どおりなのか、ちょっとスローなのか。もう少しセグメント、プラス製品単位まで分けて伺えればと思います。

[A]：まず計画に対してということなんですけれども、第1四半期については社内の計画からしますと想定を上回った業績の実績ではございました。

ただ内容を見てみますと、少し説明させていただきましたが、半導体関連で少し弱含みや、あとは機械工具についても若干の落ち込みはありますが、おおむね全体としては期初の想定以上の実績は残しております。

[Q]：こちらは為替含みでおっしゃっていて、為替を除いたベースだとどうだったんですか。

[A]：為替を除いたベースでも、期初の予定は上回っています。

[Q]：今伺った半導体関係と機械工具を除くと、ほかは全部上回ったということですか。

[A]：半導体関連も為替込みでは上回っておりますので、為替込みではほぼ全て上回っています。

[Q]：分かりました。ここから見たときの2Qはどうですか。社内計画的にはかなり2Q、3Qと上がっていくのが、御社のいつもの傾向だと思うのですけれども。

[A]：今受注を見ていますと、2Qにかけては想定していたよりも少し遅れているなと思っております。第4四半期から想定どおり、1Qにかけて上がってはきているものの、若干その上がり方が2Qから少し後ろのほうにずれているなという印象を受けます。

[Q]：その辺をもうちょっとセグメントとか製品でいうと、半導体関連や機械工具以外もそうですか。

[A]：半導体関連につきましては、メモリ関連については特にこれは若干遅れておりますが、われわれ半導体製造装置関連でも2Qからは少し遅れ気味になっております。3Q以降の上がり具合になっていくと、社内では想定しております。

[Q]：だからコアコンポーネントが大きいのですか。

[A]：そうですね。今回1Qでの落ち込みが激しい電子部品につきましても、受注状況からすると若干、まだ戻ってきていないのが内容でございます。前第1四半期を100とすると、前第4四半期で7割程度、そこから少しずつでしかまだ上がってきていないということで、電子部品がちょっと気がかりであるということだと思います。

[Q]：ありがとうございます。あと大きな二つ目で、中計を本決算のときに出されて、長期の3年という中で、今までおっしゃられたことをかたちにされて、いろんなガバナンスを含めた前進、経営計画も含めたり、またはM&Aの話もその前からおっしゃられたり、いろんな御社の良い変化は気づかせていただいている。

一方、多分株式市場はもっとスピード感とか、もう少しめりはりをつけてアクションをとってほしいとか、より成長戦略を確実にするための追加的な動きを期待する向きも、この株主総会を経て十分伝わっているとは思いますが。そういう中で、今社内でフォーカスされていることとか、追加的に議論されるべきことは何かあるのかをお伺いできればと思います。

トップラインと利益率を上げてというところが基本感だと思うんですけども、それ以外にやるべきこと、やれることは何かあるのかを議論されているところがあれば、シェアしていただければというのが二つ目です。

[A]：これは、株主の皆様との会話の中でご要望があったことについては十分承知していますし、投資家からの期待もよく分かっております。もちろんトップライン、利益は重要であるんですけども、やはり投資に対するリターンが少し遅いと、低いところが、やっぱり一番フォーカスされておりますので。

社内で重点的にといたしますと、利益率ももちろんなんですけれども、やはり投資に対する効果をきっちり出していくこと。しかも予定どおり、もしくは早くという投資効率の改善についての議論をきっちりしていきたいということにフォーカスしています。

[Q]：あくまでもオーガニック部分についてのより高いリターンというところで、もう少し広い意味でのM&Aなり、または自社株買いなり、またはキャッシュの使い方はある程度もう伺っている

範囲、示されていると思うので、そこは粛々とという感じで、あまり変化はないということでしょうか。

[A]：そうですね。キャピタルアロケーションのところでもしっかり話させていただきましたし、重点項目についても話させていただきましたので、中計のことを粛々とやることはもちろん、それはそのとおりだと思います。

## <質問者2>

[Q]：まずファーストクォーター、設備投資のところを少し減額されて先送りということなのですが、どういった製品について先送りされているのか。あと市場の見方について、少し中長期的な市場環境、設備投資に対する時期の考え方に変化があるのかどうかを教えてください。これが1問目です。

[A]：設備投資につきましては、前年同期からも大きく減少しておりますし、社内の目標に対しても落ちているのが事実でございます。冒頭、説明の中でも状況を見て一部ずらしているのもありますけれども、そのほかに物理的に納入されてこなかったところもいくつかございます。

この遅れた中心となっているものでは、ファインセラミック関連の設備投資が、一部時期がずれているのと、あと市況が軟化しています電子部品関連の設備投資の計画、ならびにタイ工場での立上げが一部遅れているという2点が、大きく落としている理由だと思います。

通期につきましては変えておりませんが、状況を見てどうなるかは現在下期の見通しを精査しているところであり、しっかり見通していきたいと思っております。現状では、やっぱり商機、機会を逃したくないことがありますので、設備投資をちゃんと実施していく計画でございます。

[Q]：確認ですけれども、要はFC関連を中心とした投資については、基本的にはずれであると、納期のずれであるところが中心で、一方で電子部品関連のところは需要見合いで少し先送りしている要素があると、こう理解すればいいですか。

[A]：はい。

[Q]：それとやはり先ほども出ていましたけれども、要するに設備投資効率を考えてキャッシュアウトの時期を最適にしようということで、少し従来から考え方を変えているのか、それとも通常のオペレーションなのでしょうか。

[A]：特に意識してキャッシュアウトの時期をコントロールしているところまではいっていませんので、通常のオペレーションの中での範囲でのずれだと理解していただければと思います。

[Q]：分かりました、ありがとうございます。それから2問目なんですけれども、市場環境についてです。

先ほどからちょっと弱いところとしては半導体関連とかご紹介していただいたんですけれども、アプリケーションごとの市場の見方です。スマホと自動車については、御社は事業環境をどのように見られているか。下期について見通しの変更等、今のところはないと思いますけれども、現状で考えたらちょっと上とか下とか、それから感触等を教えてください。

[A]：まずスマホについては皆さんご理解のとおり、弱含みが当面続くんじゃないかなとは考えています。

車載については生産も伸びてきていますので、今後も引き続き伸びるのではないかと見通しています。

[Q]：スマホのところは期初計画に対して考えても、やっぱりちょっと弱いという見方でしょうか。

[A]：弱いと思います。

### <質問者3>

[Q]：質問、2点お願いします。

1点目が電子部品の売上、事業利益がYoYで大幅に減少していて、QonQでも減少しているんですけれども、為替を勘案するとQonQで減少している理由がよく分からないのですが、KAVX、京セラに分けて、もしくは京セラの中でどういう製品が特に弱いのか。2Q以降の見通しについても教えてください。それが1点目でございます。

[A]：電子部品についてはご指摘のとおり、非常に弱含みになっておりまして、国内においても減収減益でございます。水晶部品等も伸びておりませんので、QonQで見ても落ちている流れになります。

KAVXについては市場での在庫調整等がありまして、在庫がたまっており、前四半期から操業度はだいぶ落ちています。なかなか原価が落ちてこないかたちで、操業度の損失が一番大きい、利益を圧迫している原因だと考えています。

こちらについては2Q以降は、今の受注の推移からすると若干は右上に上がってくるものの、想定よりは少し弱いかなど。コアコンポーネント以上に若干遅れているのではないかという感じを持っています。

**[Q]**：ありがとうございます。若干弱いとおっしゃられたのは、KAVXが若干弱いということですか。それとも電子部品全体としてですか。

**[A]**：電子部品全体が弱いんですけれども、われわれは比重がKAVXが大きいものですから、どうしても弱く感じるということです。

**[Q]**：2Q以降、シーズナルにも増えてくる製品が多いかと思うんですけれども、それらについての感触は現時点でどのようにお持ちでいらっしゃいますか。

**[A]**：当然、季節要因で戻ってくるのは戻ってくると想定しておるんですけれども、利益がついてくるかという、そこを一番心配しております。

**[Q]**：例年どおり売上は増えるけれども、利益は必ずしも伴わないリスクがあるということ。

**[A]**：例年どおりいかない可能性もあるということです。

**[Q]**：分かりました。あと半導体関連について教えていただきたいのですが、これをセラミックと有機に分けると、この1Q、および2Q以降、どんな動きがあるのか教えてください。

特に有機において、生産能力を大幅に増やす計画を持っていらっしゃいますけれども、それについては中長期では変わらないんでしょうけれども、足元どんな変化が起きているのかについても教えてください。

**[A]**：セラミックと有機ですけれども、セラミックについては徐々に回復してきていますので、想定どおり3Qにかけて上がっていくと思っておりますが、有機についてはまだまだそこまでいかないと。もう少し先になる可能性もあるということで、われわれの想定よりは少し低いかもしれません。

#### <質問者4>

**[Q]**：1問だけなんですけれども。

ソリューションセグメントの、その他について教えてください。第4クォーター、30億円ぐらい赤字でありましたけれども、このクォーターは20億円強の黒字になっておられます。この変化の背景と2クォーター以降の継続性について、どのようにご覧になっているかを教えてください。

[A]：その他のところにはスマートエネルギー、ソーラー関連の事業が入ってしまっていて、こちらが改善しており、ほぼブレークイーブンにきているところが大きい理由です。

あとはここに前回、交通インフラ関係の事業で入っていましたが、こちらを停止して、今研究開発に移っている部分がありました。その二つで大きく変わったのと、ほかは部品関連、小さい事業もありますけれども、そちらが順調に回復していることが主因だと思います。

[Q]：この交通インフラのところは組み替えたということなので、それは本社部門側にマイナスが寄っているということですか。

[A]：交通インフラのところについては前期、通信関連のところの一部引当の損失を計上しておりますので、そちらは今期、この事業体にはございません。

[Q]：分かりました。あとスマートエネルギーの改善のところの中身なんですけれども、例えば電池などの損益改善が進んできていることが効いているのでしょうか。改善の背景と、あと継続性を教えてください。

[A]：スマートエネルギーについてはネットゼロエネルギーハウス、ZEH の件も含めて、そういうレジリエンスの高まりからだいぶ改善してきました、ほぼ採算がとれることが見えてきました。

第2四半期以降につきましても、大東建託さんとの契約の効果も増えてきますので、蓄電池も含めて改善してくるので、今期については黒字化ができるのではないかと見通しをしております。

## <質問者5>

[Q]：私も細かいご質問から入らせてもらいたいですけれども。今ご質問があったソリューションのその他のところの費用の付替えは、セグメント情報でいくとどちらに付け替わっているのでしょうかということ。

それと数字の話なのでまとめて申し上げますと、機械工具が QonQ の売上が結構増えていらっやっています、利益も増えていらっやるので、この好調の背景を教えてください。

まずその2点、教えていただけないでしょうか。

[A]：ソリューションのその他からその他の事業に付け替えました。

[Q]：だからその他のところが悪いわけですね。あと、機械工具のところの好調の背景を教えてください。QonQ で見たときに改善が大きいので。

[A]：ご質問は前期 4Q に比べて伸びた理由が何かということですよ。

[Q]：そうです。

[A]：空圧電動工具が増えていますね。SouthernCarlson とか KIT です。

[Q]：分かりました、ありがとうございます。あと 2 問目が、これは半導体関連部品のところの、こちらは悪化したのは、こちら QonQ で見たほうが分かりやすいので QonQ でお願いしたいんですけども、一段と悪化したのは有機パッケージに限定した話なのか、それともセラミックパッケージも同じように悪化しているのか。それについて教えてください。

[A]：QonQ でいきますと、有機パッケージのほうが大きく悪化しています。

[Q]：そうすると、在庫調整が続くから、先行き少し見方が立たないというのが有機パッケージというイメージですか。お客様の在庫調整という意味では。

[A]：はい。

[Q]：その上で 3 点目のご質問なんですけれども、設備投資は中計発表されたときはかなり衝撃的なお話をされていて、需要が弱くても投資するみたいな話を基本はされていたと思うんですけども、1Q の進捗を見るとやっぱり御社はアメーバで経営していらっしゃるの、需要が悪いときに投資するのは、相当抵抗感があるんじゃないかという投資の数字に見受けられます。

これはトップダウンで投資の進捗が悪かったのか、それともボトムアップで、アメーバをやっているの、現実的に投資できるものとできないものが、スタビライザーみたいなかたちで効いてきて、投資があまり進捗していなかったのか。これはどう考えればよろしいでしょう。

[A]：もちろんアメーバをやっていますので、現場の方からという形にはなりますけれども、それでもやるべきときにはやるということで、マネジメントの方からもやる分野については、それに関係なくやることもあります。すべて市場を見て、弱含みで後ろ倒しにしたわけじゃなくて、実際にものが納入されてこないのもかなりのものがあります。

[Q]：イメージとしては、戦略的にやる場所はトップダウンで判断してやる。そうじゃないところは現実的にはアメーバで、需要が悪いとスタビライザーみたいなかたちで効いてくるみたいなイメージを持てばよろしいですか。

[A]：はい。その理解でいいと思います。

以上

## 注記

当資料は、SCRIPTS Asia 株式会社によって録音・書き起こしされたものを当社にて一部編集したものです。

### 将来事象に関する注意事項

当資料には、将来の事象についての2024年3月期第1四半期決算説明会開催日（2023年7月31日開催）時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。詳細は、当社ホームページに掲載の「将来の見通しに関する記述等について」をご参照ください（<https://www.kyocera.co.jp/ir/disclaimer.html>）。